○按ズルニ、本書ノ奥書ニ、或云ク、舊幕府時代麹町貝坂邊ニ、狆醫者アリ、是蓋シ其者ノ著述ナランカ、

〔本草和名十五獸禽〕家狸、一名猫、和名禰古末、

〔倭名類聚抄十八毛群名〕猫　野王按、猫音苗、和名禰古萬、似虎而小、能捕鼠爲粮、

〔箋注倭名類聚抄七獸名〕本草和名同訓、或省云禰古、新撰字鏡、狸禰古、按、狸一名猫、見本草和名、下總本句末有者也二字、今本玉篇犬部作猫食鼠也、慧琳音義一引作猫似虎而小、人家所養畜、以捕鼠也、一引作似虎而小、人家畜養令捕鼠、一引作猫如虎而小、食鼠者也、各有小異、郊特牲云、迎貓爲其食田鼠也、太平御覽引尸子云、使牛捕鼠不如貓狌之捷、莊子秋水篇云、騏驥驊騮、一日而馳千里、捕鼠不如狸狌、爾雅翼貓小畜之猛者、性陰而畏寒、雖盛暑在日中不憚、鼻端四時冷濕、惟夏至卽溫、目睛早晚員、日中如線、就陰則復員、李時珍曰、貓捕鼠小獸也、處々畜之、有黃黑白駁數色、狸身而虎面、柔毛而利齒、按說文無猫字、爾雅戲貓、說文引作戲苗、則知古借用苗字、

〔類聚名義抄三犬〕猫俗通貓正莫交、子コ、カラ子コ、〔同四多〕貓正猫俗、莫交反、子コ、音苗、

〔一切經音義一〕新華嚴經音義第七十八卷

猫狸上又作貓字、亡朝亡包二反、下力其反、猫、捕鼠也、狸狸也、又云野狸、倭言上尼古、下多々既、

〔下學集上氣形〕猫子コ鼻常冷、夏至一月暖、旦暮目睛圓、午時細如線、毛色似虎、故呼、世俗曰於菟、則喜矣、

〔運歩色葉集禰子コ〕如虎猫

〔日本釋名中獸〕猫　ねはねずみ也、こはこのむ也、ねずみをこのむけもの也、一說、猫はよくねるをこのむ意か、順和名抄にねこまと訓ず、まとむと通ず、このむのむの字也、のを略せり、

〔東雅十八畜獸〕猫子コマ○中略　子とは鼠也、コマとは、コマといひ、クマといふは轉語也、鼠の畏るゝ所なるを云ひし也、卽今俗に子コといふは、其語の省ける也、

猫名稱